

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
家庭基礎	2	2	家庭基礎 ともに生きる・未来をつくる (第一学習社)	生活学 Navi 資料+成分表 (実教出版)
科目の概要と目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
1編ともに生きる社会をめざして 1章 青年期-自立して生きる 第1節 青年期を生きる 第2節 家族・家庭と社会との かかわり	1. 青年期の課題と意思決定 2. 男女の平等と相互の協力 3. 仕事と生活の調和を目指して 1. 家族とは? 家庭とは? 2. これからの家族を考える 3. 家族・家庭をまもる法律	青年期は自分の存在や生き方を考え、アイデンティティを確立する時期であることを認識する。自分を見つめ直し、青年期の課題である自立や、男女のあり方について考える。家族の基礎的な役割とその重要性について理解する。現代の家族の特徴を理解し、これからの家族のあり方を追求する。さらに、家族・家庭を支える法律についても理解する。		
1編2章 壮年期-次世代を育む 第1節 子どもの心身の発達	1. 次世代を育てるといこと 2. 胎児は母体とともに 3. 子どものからだの発達 4. 子どもの心の発達	人は、生まれ育つ中でどのような発達の過程をたどるのかについて理解する。子どもの発達と、次世代を育てることの意義について理解する。また、子どもの発達への親の関わり方と、子どもの生活や遊びについて理解する。		
第2節 子どもの生活と親の 役割	1. 親と子-共に育ちあう関係 2. 子どもの生活 3. 子どもの遊びと発達	子どもを育てるといことは、家族の絆を深めるだけでなく、次の時代を担う人間を育てるとい、社会的な意義があることを理解する。		
第3節 子どもをとりまく環境 と福祉	1. 子育て支援と地域の交流 2. 子どもの人権と福祉	子どもの育つ環境は常に変化しており、子どもと人権や福祉に関する現状と対策について理解する。次世代を担う子どもたちが、健やかに育つ環境を整備し、支援していく責任の必要性を理解する。		
1編3章 高齢期-充実した生涯へ 第1節 高齢期をどう生きるか	1. みんなが迎える高齢期 2. 高齢期をアクティブに生きる	高齢化社会を迎え、私たちにあって高齢者の存在がかわりの深いものになってきている。豊かな生活経験をもつ高齢者から学ぶことが多いことを理解する。また、高齢者の健康意識について知り、優れた知力について理解する。		
第2節 高齢者の生活と福祉	1. 高齢期の暮らし 2. 介護保険制度による支援 3. 高齢者の尊厳を支える	高齢期の暮らしは、生活費や医療費、介護の面での課題が多い。身体機能の変化にも個人差があり、介護が必要になってくる。心豊かに、その人らしい自立した生活を送るためには、どのようなサポートが必要であるかを理解する。		
1編4章 共生社会と福祉 ともに支えあう社会をめざして	1. 暮らしを支える社会のしくみ 2. 支えあって生きる	私たちのくらしは、各ライフステージ毎に様々な社会的支援によって支えられていることを理解する。だれもが共に支えながら、安心して暮らせる社会を作りあげていく方策について考える。		
【生活の課題にチャレンジしよう】 「ホームプロジェクト」	1. 課題の解決をめざして 2. 実践例	「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。「ホームプロジェクト」は、学習成果を踏まえて、生活の中から課題を見だし、個人で主体的に計画をたてて問題の解決をはかる。		
2編 自立した生活をめざして 2章 装う 第1節 私たちの暮らしと被服 第2節 被服材料	1. 装うということ 2. 衣生活の現状と課題 3. 衣生活と環境 1. 被服材料の種類 2. 被服材料の性能	被服の機能と衣生活の現状を理解し、被服をめぐる環境を含めた様々な問題について分析し、対応策を考えることができる。		
第3節 被服の選択と管理	1. 被服の選び方 2. 洗濯のしくみと洗剤 3. 被服の手入れと保管 エブロン製作	被服を有効活用するためには被服材料の特徴を理解することが大切である。被服材料とその性能について学び、被服材料の性能を生かした着装ができる。自分にあつた被服を適切に選ぶことができる。洗濯、手入れ、保管方法について理解し、被服の手入れについて、主体的に取り組む態度を養う。		
【被服製作】		衣生活にとって必要な、ミシン縫い・手縫いの方法や修理の仕方、アイロンがけ等の基礎的な技術を身につける。		
2編3章 住まう 第1節 私たちの暮らしと住まい	1. 住まうということ 2. ライフスタイルと住まい 3. 地域コミュニティと街づくり	人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生をさかのぼって考える。快適で健康な住まいとはどのようなものなのか、私たちのライフスタイルと住まいの関わりについて理解することができる。また、さまざまな生活条件をもった人びとが、安心して住めるよりよい住環境について考える。		
第2節 快適な住まいをめざして	1. 室内環境を快適に 2. 住まいの安全対策 3. 住まいの維持・改善 4. 住生活と環境	毎日の暮らしを快適にするためには、住まいの衛生と安全対策に欠かせないことを理解する。環境負荷を考慮し、住まいを維持・管理していく方法を知り、安心して快適な住まいについて考える。		
2編1章 食べる 第1節 私たちの暮らしと食生活	1. 食べるということ 2. 食生活の課題をめぐって 3. 食生活と環境	食物の役割を認識し、食が心身を育むうえで大切なものであることを理解する。現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解し、食生活のなかで心がけるべきポイントを知り、それを実践できる能力を養う。また、現代の食生活をめぐる課題とともに、食生活と環境問題の関連性についても理解する。		
第2節 栄養と食品	1. 人体と栄養 2. 炭水化物 3. 脂質 4. たんぱく質 5. 無機質・ビタミン 6. 嗜好食品・加工食品	健康な生活を送るうえで必要な栄養素とその主な働きについて理解する。食品の種類によって含まれる栄養素も様々であり、それぞれどのように働きをしているのかを理解する。		
第3節 食品の選び方	1. 食品の安全・衛生 2. 表示を見て食品を選ぶ	食品を選ぶ際には、食品表示をもとに、安全、衛生かどうか、新鮮かどうか、栄養バランスの取れた品質の良いものかどうか、などを確認し、購入に際しての選択方法を身につける。		
第4節 食生活をデザインする	1. 1日にどれだけ栄養をとれば よいか 2. 食品群と摂取量のめやす 3. ライフステージと食事 4. 食事づくりの手順 5. 調理の基本 6. マナーと配膳	乳幼児期から高齢期に至るまでの将来を見通した食生活を考えていくことが大切であることを理解する。各ライフステージにおいて、何をめやすにどれだけの栄養素を取ればよいかを理解し、献立・調理の工夫ができる。また、エコクッキングについての理解を深め、実践できる態度を養う。		
【調理実習】	①和風献立 親子どんぶり すまし汁 酢の物 ②中華献立 青椒肉絲 粟米湯 杏仁豆腐 ③洋風献立 ハンバーグスープ ハンバーグ サラダ	・炊飯の理論と方法・だしの種類と作り方、使い方・青菜のゆで方 ・あえ物のつくり方と三杯酢の作り方 ・中華鍋の扱いと炒め物の基本。 ・中華調味料の種類と使用方法・でんぷんの種類と調理性について ・寒天とゼラチンの違い、扱い方・スープの種類・ひき肉に加える副材料の役割・ハンバーグの焼き方・生野菜の扱い方・ドレッシングの作り方		
2編4章 消費を考える 第1節 私たちの暮らしと経済	1. 家庭経済のしくみ 2. 家庭の収入と支出 3. 家庭の経済計画とリスク管理	家庭経済と国民経済との関わりを理解し、家庭の経済計画、予算計画の必要性を認識する。経済社会の変化が家庭経済にさまざまな影響を及ぼしていることを理解する。経済生活の現状を把握し、発生するリスクへの備えを理解した上で、経済生活の設計と管理について考える。		
第2節 消費者の権利と責任	1. 消費者問題と消費者の権利 2. 消費者保護から消費者の自立へ 3. 契約トラブルとその対策 4. 消費者信用の利用	私たちの生活の質を向上させていくためには、自分の消費生活の現状を把握し、消費者の立場から問題解決に取り組む意識が必要である。消費者の権利と責任とともに、消費者の自立や意思決定について考え、理解を深める。		
第3節 持続可能な社会を めざして	1. 私たちの暮らしと環境・資源 2. 環境にやさしい消費行動	現代の消費生活が資源を枯渇させ、環境に悪影響を及ぼしていることについて考えさせ、私たち自身が環境に負荷を与えないよう工夫していく必要性を理解する。環境負荷の少ない生活をめざして、環境に調和したライフスタイルの確立をはかり、実践する姿勢を身につける。		
【生活をデザインしよう】	1. 生活設計とは 2. ライフデザインリストをつくらう	生活における価値観や生き方が多様化していることを認識し、自分らしく生きるためには、自分の価値観に基づいて、生活設計を考えてみる必要があることを理解する。		